# 人口減少時代の都市づくり

千葉商科大学　基盤教育機構

准教授　田中 信一郎

© 2019 Local Policy Design Office

# 自己紹介

## 千葉商科大学 基盤教育機構　准教授
## 一般社団法人 地域政策デザインオフィス　代表理事
## 博士（政治学）

国会議員政策担当秘書、明治大学政治経済学部専任助手、横浜市地球温暖化対策事業本部政策調査役、内閣府行政刷新会議事務局上席政策調査員、内閣官房国家戦略室上席政策調査員、長野県企画振興部総合政策課・環境部環境エネルギー課企画幹、自然エネルギー財団特任研究員等を経て、現在に至る。

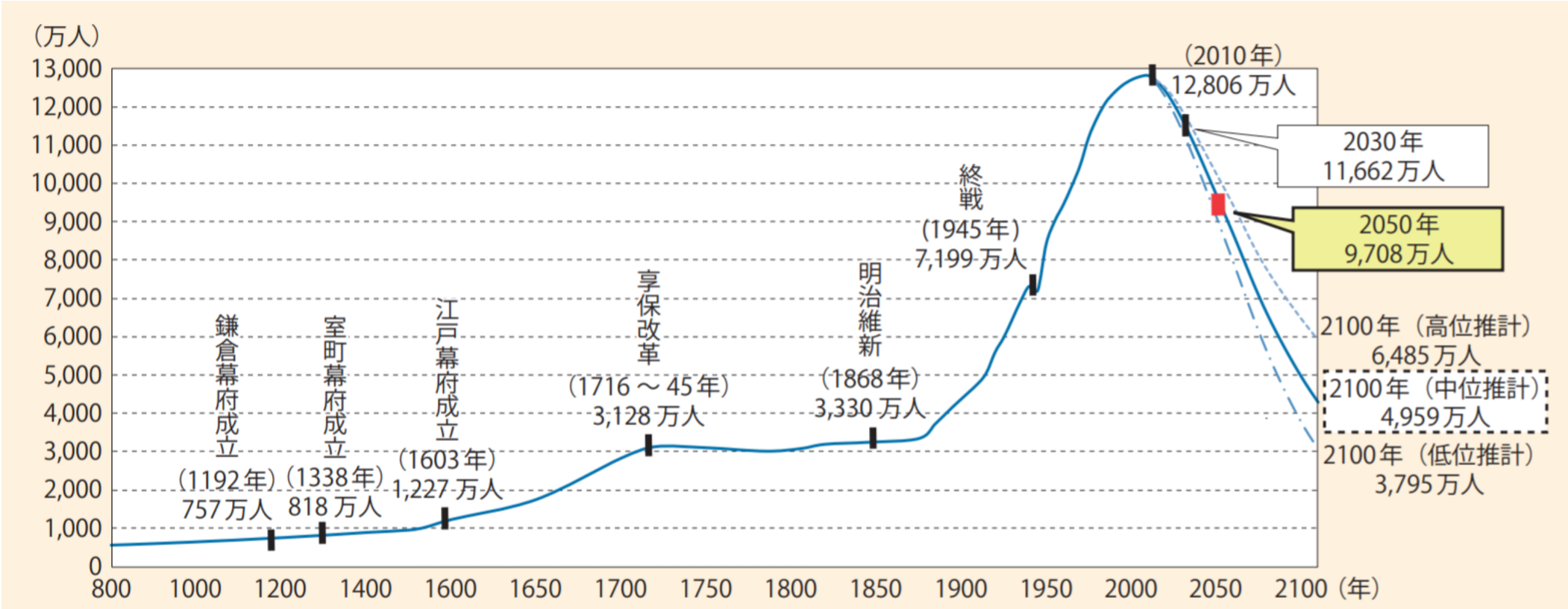
国（内閣・国会）と県（長野県）、市（横浜市）のすべてで政策企画の経験を持ち、国では行政府と立法府の両方で政策企画に携わった。また、有識者として国や自治体で審議会委員等の経験も有する。現在、長野県環境審議会地球温暖化対策専門委員会委員、北海道ニセコ町環境戦略アドバイザー。

【著書】
『政権交代が必要なのは、総理が嫌いだからじゃない』現代書館、『枝野幸男、魂の３時間大演説』扶桑社（共著）、『信州はエネルギーシフトする』築地書館、『国会質問制度の研究』日本出版ネットワーク、『国民のためのエネルギー原論』日本経済新聞出版社（共著）、『再生可能エネルギー開発・運用にかかわる法規と実務ハンドブック』NST（共著）

© 2019 Local Policy Design Office

# 日本の長期人口推移





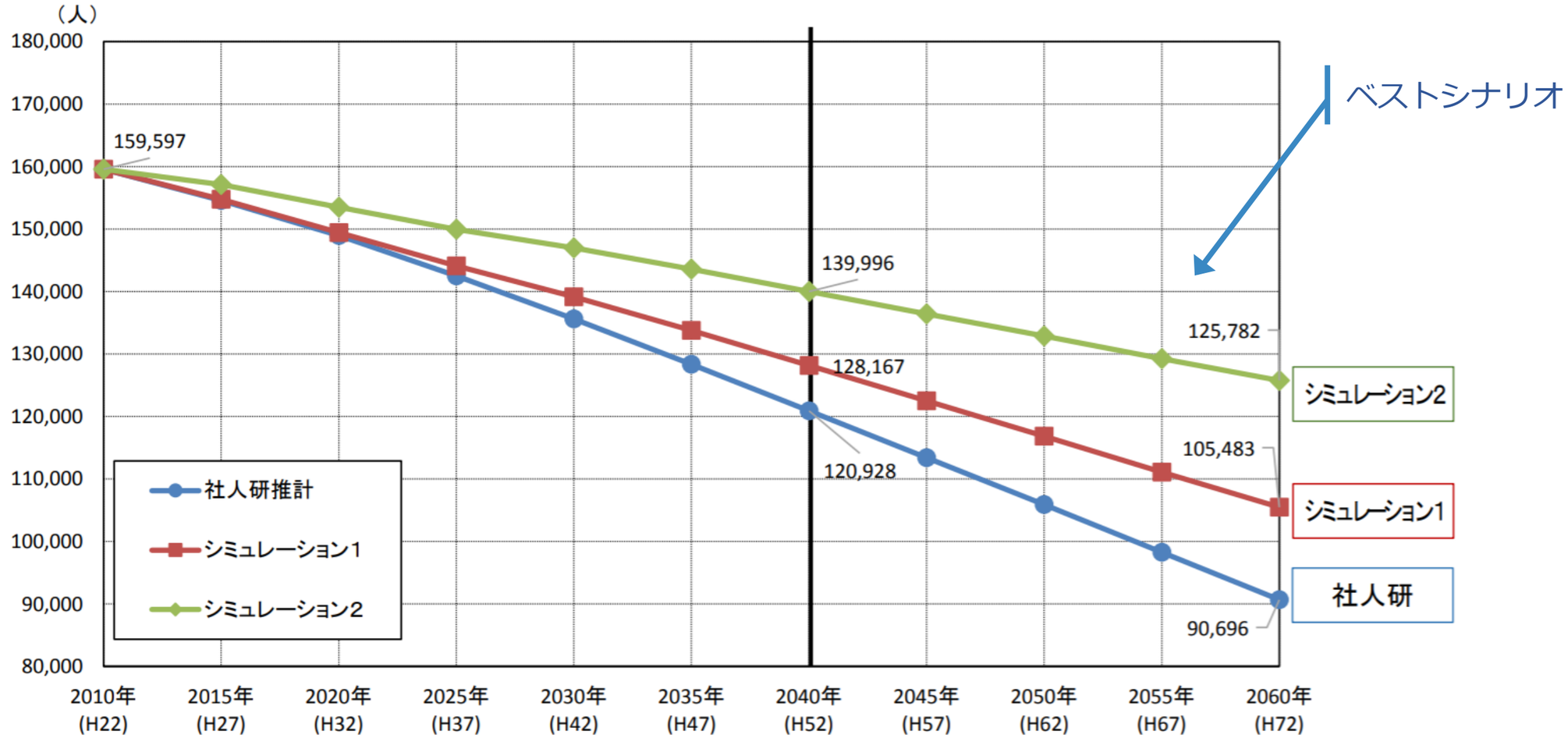

有史以来、初めての人口減少時代に突入

© 2019 Local Policy Design Office

「国土交通白書2012年度版」

# 上田市の人口見通し






上田市では、少なくとも100年先まで人口が増える見込みはない

© 2019 Local Policy Design Office

# 上田市のインフラ状況



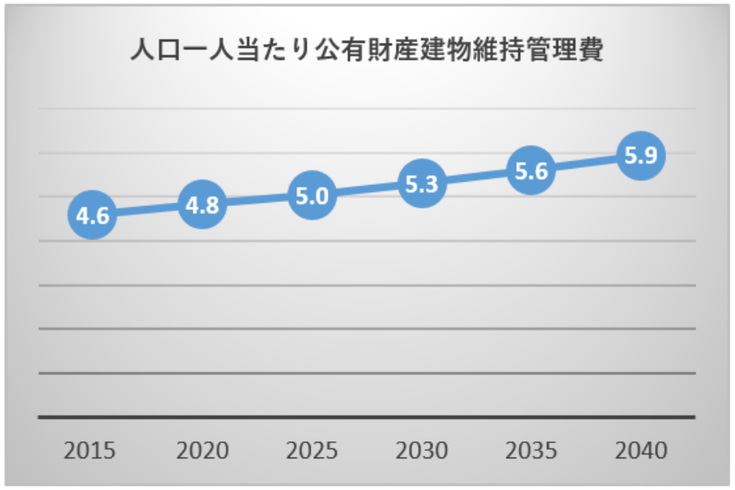
公有財産・道路・住宅

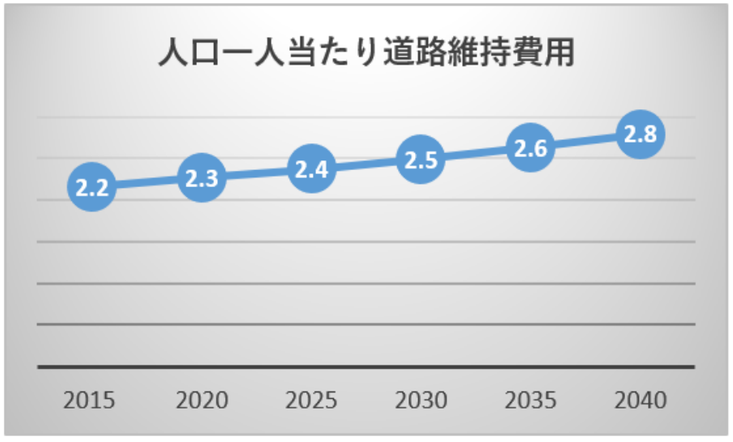
| 2015 | 上田市 | 長野県 | 単位 |
|---|---|---|---|
| 公有財産（行政財産）建物床面積 | 642479 | 10556587 | $m^2$ |
| うち、本庁舎 | 12320 | 457367 | $m^2$ |
| うち、小学校 | 161534 | 2195172 | $m^2$ |
| うち、中学校 | 98930 | 1428922 | $m^2$ |
| うち、高等学校 | 0 | 30415 | $m^2$ |
| 公有財産（普通財産）建物床面積 | 662308 | 11065934 | $m^2$ |
| 道路実延長 | 2143.2 | 47636.5 | km |
| 人口一人当たり道路実延長 | 13.67 | 22.70 | km |
| 人口一人当たり公有財産建物床面積 | 4.22 | 5.27 | $m^2$ |
| 人口一人当たり本庁舎建物床面積 | 0.08 | 0.22 | $m^2$ |
| 公有財産建物維持管理費概算 | 71.8 | 1198.8 | 億円/年 |
| 道路維持費用概算 | 33.8 | 751.3 | 億円/年 |

空き家比率（人口の少ない町村では住宅土地統計調査が実施されていないため＃N/Aとなります）

| | 2003 | 2008 | 2013 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 上田市 | 17.2% | 22.7% | 23.2% | | |

（万円／人）

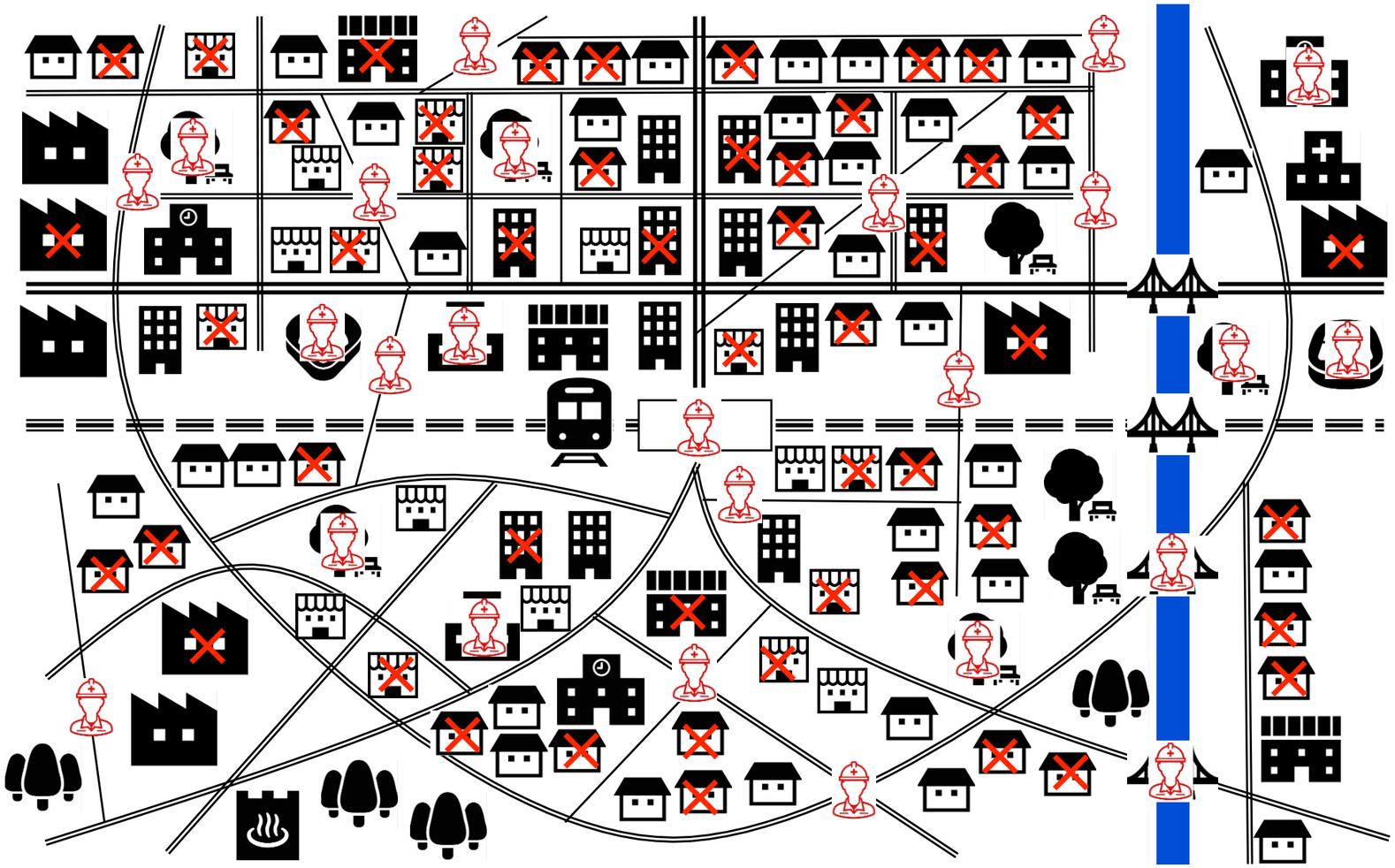



© 2019 Local Policy Design Office

# 人口減少とインフラ老朽化（将来）





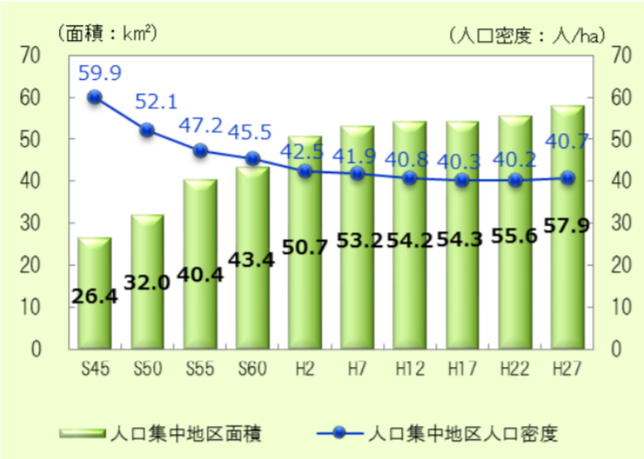
虫食い状態で人口減少とインフラ老朽化が進む

© 2019 Local Policy Design Office

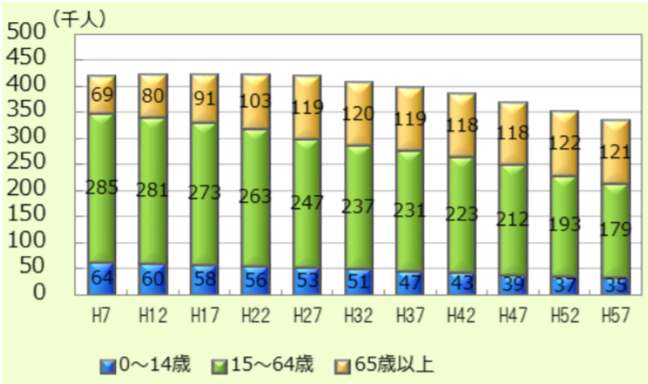
# 富山市のコンパクトシティ政策①

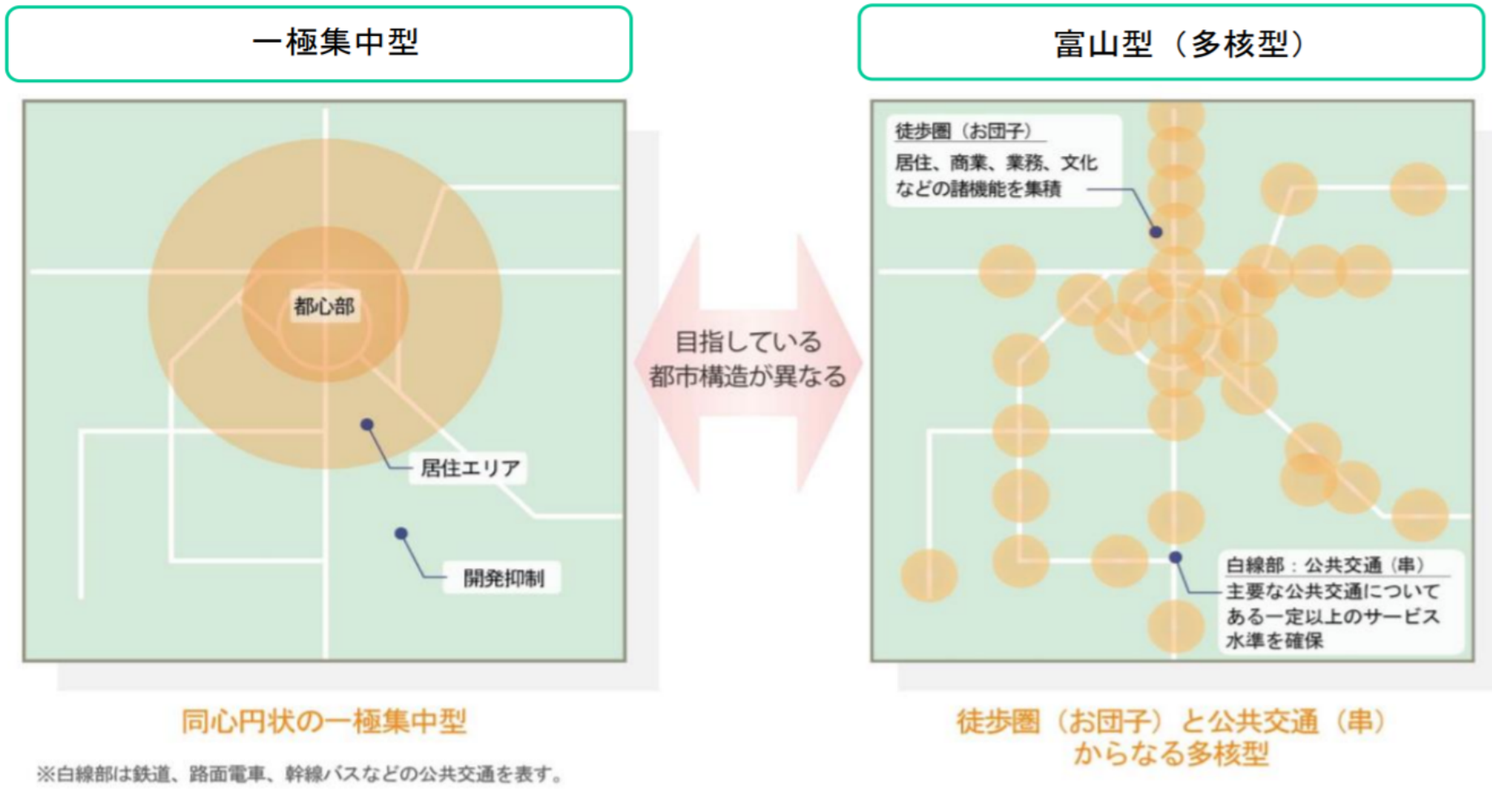


■ 市街地の面積の拡大と人口密度の推移




■年齢別人口の予測



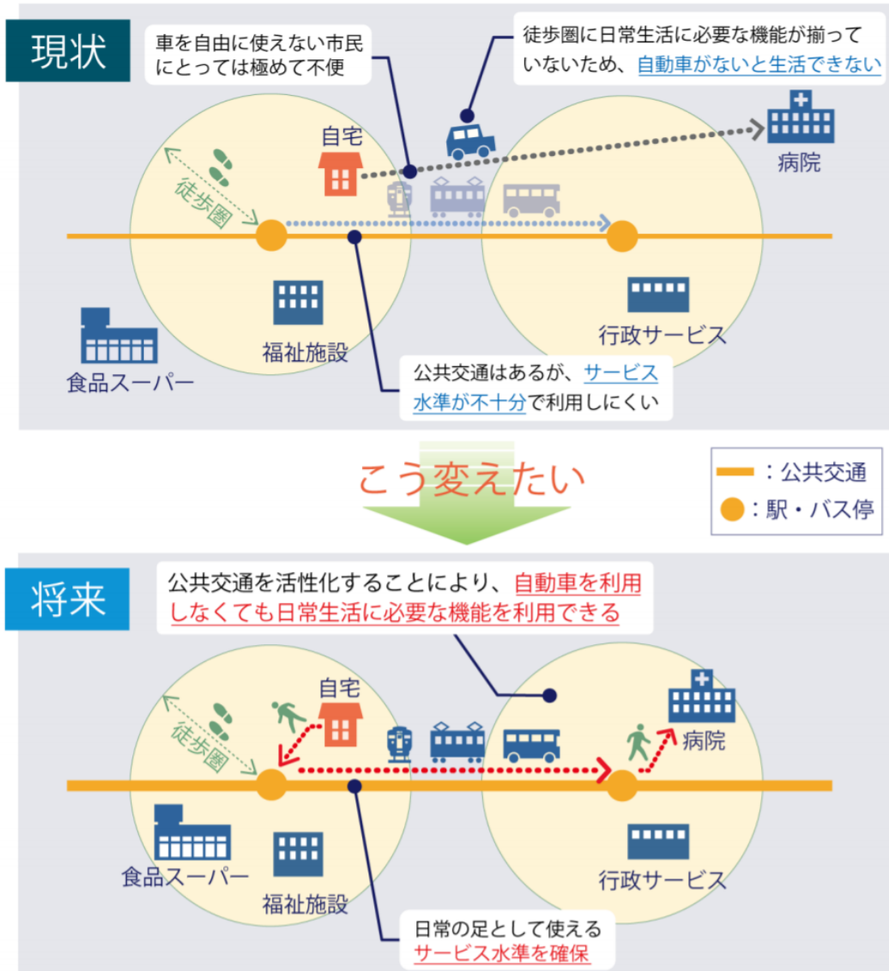

※白線部は鉄道、路面電車、幹線バスなどの公共交通を表す。

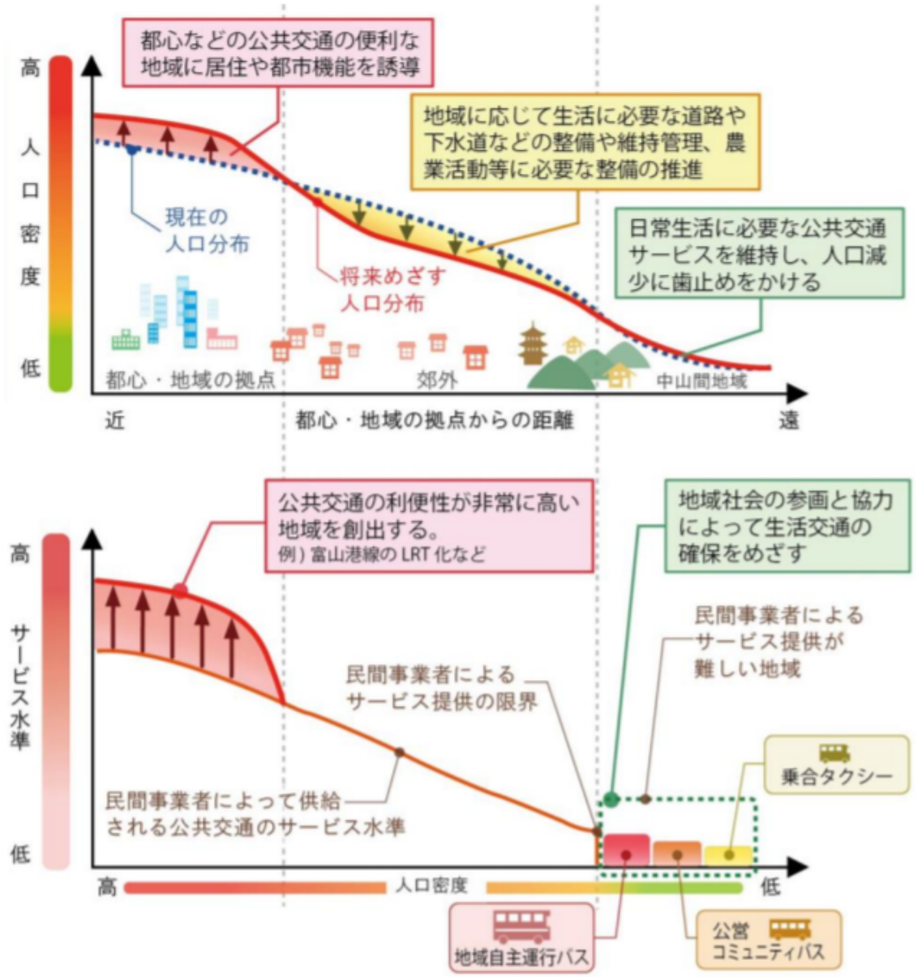
**駅・電停・バス停の徒歩圏内に人口を長期的に誘導する政策**

© 2019 Local Policy Design Office

# 富山市のコンパクトシティ政策②





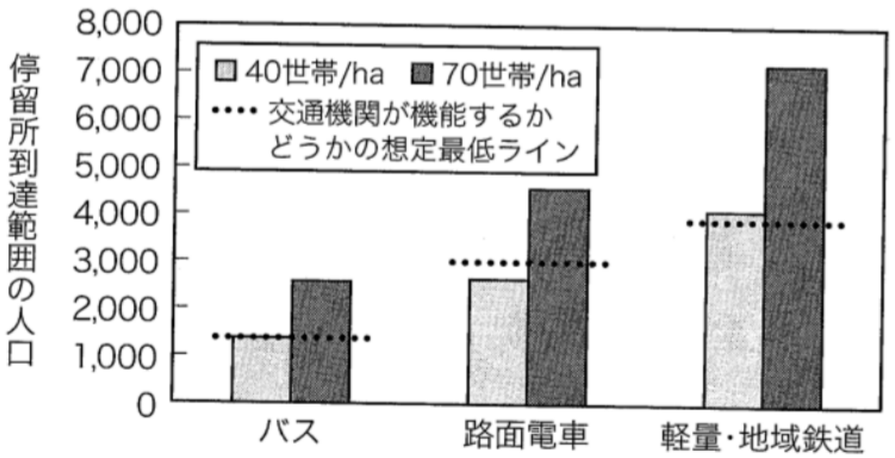

**人口密度と公共交通をベースにし、住民の暮らしを守る都市計画**

© 2019 Local Policy Design Office

# ドイツのショートウェイシティの考え方

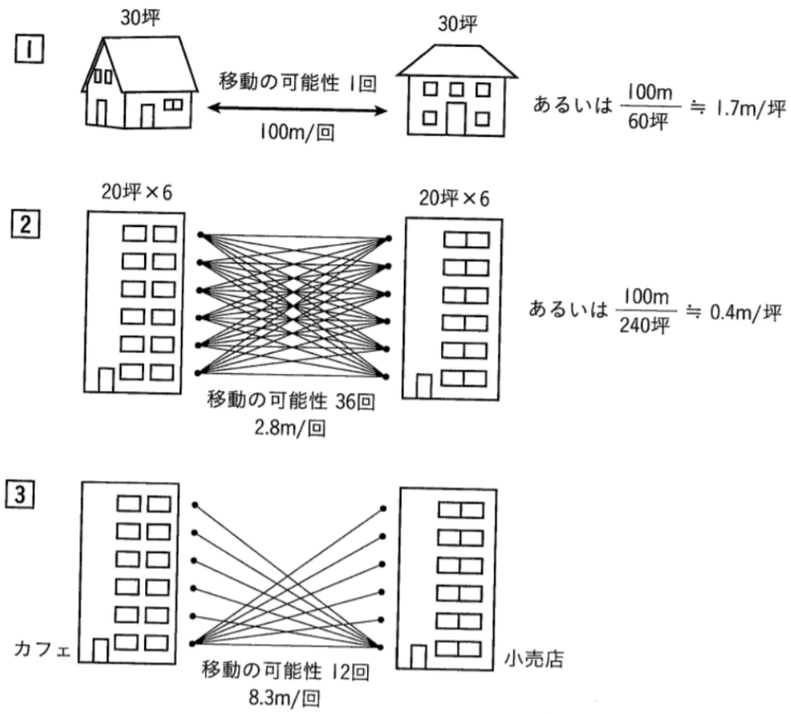


## 公共交通が機能する人口密度




① **バスの停留所**は、歩きで**半径300m圏内に1,500人以上**が住んでいる
② **路面電車の停留所**は、歩きで**半径400m圏内に3,000人以上**が住んでいる
③ **近郊鉄道の駅**は、歩きで**半径500m圏内に4,000人以上**が住んでいる

## ショートウェイシティの概念



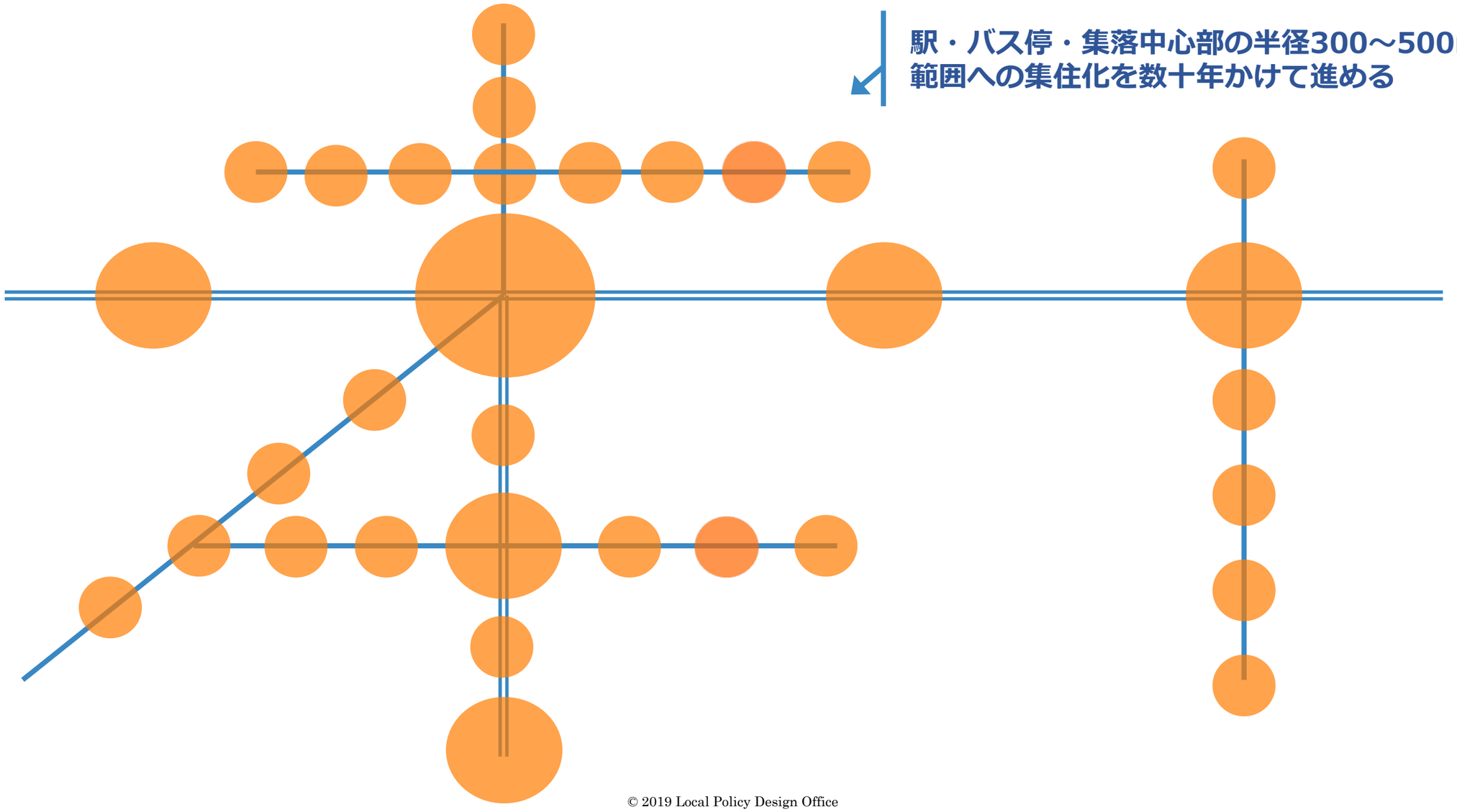

都市計画の区域の線引きだけでなく、居住地内に日用品や日常サービスを提供するような非住居スペースを織り込み、**近距離移動の可能性を飛躍的に向上させる対策**が必須。

日本の都市計画には、上記の概念はほぼ存在しない

© 2019 Local Policy Design Office 左：村上敦『フライブルクのまちづくり』51頁、右：同『ドイツのコンパクトシティはなぜ成功するのか』76頁

# 富山市・ドイツの考え方を上田市に応用すると…






© 2019 Local Policy Design Office

# 上田電鉄 Build Back Better（より良い復興）への一提案

地域政策デザインオフィス
Local Policy Design Office

① 近郊鉄道から路面電車（LRT）への転換

② 上田橋への軌道整備による上田－城下間の早期復旧

③ 上田－大手通－上田城間の新軌道の整備

④ 城下－別所温泉間への新駅設置と旧役場付近までの延伸

⑤ 拠点駅からのフィーダーバス（支線バス）の整備

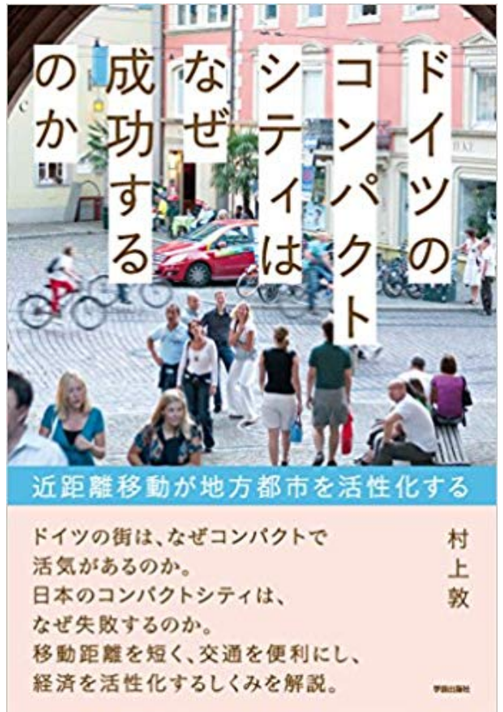
駅・バス停への集住化と公共交通のゾーンパスもセットで必要

© 2019 Local Policy Design Office

# もっと人口減少時代の都市づくりを学びたい方へ

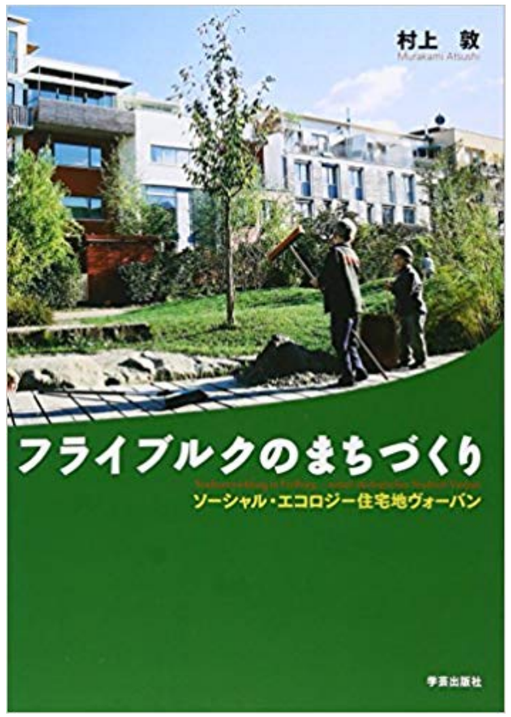
地域政策デザインオフィス
Local Policy Design Office

**ドイツのコンパクトシティは
なぜ成功するのか**




村上敦　学芸出版社
都市計画の担当者に限らず、まちづくり関係者の必読書。

**ドイツのコンパクトシティは
なぜ成功するのか**




村上敦　学芸出版社
都市計画の担当者は、左に加え、本書も必読。

**縮小都市の挑戦**

矢作弘　岩波新書
都市のあり方と活力が密接に結びついていると分かります。

**信州はエネルギーシフトする**
環境先進国・ドイツをめざす長野県

田中信一郎　築地書館
エネルギー視点のまちづくりについては、本書をどうぞ。

© 2019 Local Policy Design Office